



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究会報
Citation	独語独文学研究年報, 29, 41-44
Issue Date	2002-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/26138
Type	departmental bulletin paper
File Information	29_P41-44.pdf



研究会報

講義題目（2002年度）

[学部]

独語学概論Ⅰ	言語実用論とコミュニケーション	植木 迪子
独語学概論Ⅱ	現代ドイツ語の構造とドイツ語史	清水 誠
独文学史概説Ⅰ	文学史記述の問題	山田 貞三
独文学史概説Ⅱ	ドイツを中心とした文学史と研究方法	石原 次郎
独語学	ドイツ語の多言語性（1）	植木 迪子
独語学	ドイツ語の多言語性（2）	植木 迪子
独語学	Sprechen für Fort geschrittene: Mediensprach-Fernsehstudio	Christine Kühn
独語学	Sprechen für Fort geschrittene: Mediensprach-Zeitungsredaktion	Christine Kühn
独文学	言語批判（1）	山田 貞三
独文学	言語批判（2）	山田 貞三
独文学	Er-wachsen -- wie und wohin?	Michael Schart
独文学	Der Euro ist da! Und nun?	Michael Schart
独語学基礎演習	Basiskurs Deutsch（1）	Christine Kühn
独語学基礎演習	Basiskurs Deutsch（2）	Christine Kühn
独文学基礎演習	ドイツ児童文学を読む（1）	山田 貞三
独文学基礎演習	ドイツ児童文学を読む（2）	山田 貞三
独語学演習	北欧語入門（1）	清水 誠
独語学演習	北欧語入門（2）	清水 誠
独語学演習	StadtporträtsⅠ: Sprache, Literatur und Kunst deutscher Städte	Christine Kühn
独語学演習	StadtporträtsⅡ: Sprache, Literatur und Kunst deutscher Städte	Christine Kühn
独文学演習	言語イメージ論（1）	石原 次郎
独文学演習	言語イメージ論（2）	石原 次郎

[大学院]

ドイツ文学特別演習	文学教育の社会史（1）	石原 次郎
ドイツ文学特別演習	文学教育の社会史（2）	石原 次郎
ドイツ語学特別演習	Sprechen –Psychologie der Sprachproduktion（1）	植木 迪子
ドイツ語学特別演習	Sprechen –Psychologie der Sprachproduktion（2）	植木 迪子
ドイツ語学特別演習	ドイツ語の歴史と類型（1）	清水 誠
ドイツ語学特別演習	ドイツ語の歴史と類型（2）	清水 誠
ドイツ文学特別演習	言語批判論の系譜（1）	山田 貞三
ドイツ文学特別演習	言語批判論の系譜（2）	山田 貞三
ドイツ語学特殊講義	Germanistik in DeutschlandⅠ	Christine Kühn
ドイツ文学特殊講義	Germanistik in DeutschlandⅡ	Christine Kühn

研究会行事記録

- ◎ 2002年2月10日に北海道大学文学部204号室において2001年度卒業論文発表会が開かれた。

〈留学関係〉

- ◎ 2002年8月に戸松豊氏がミュンヘン大学へ留学のため出発。
- ◎ 2002年8月に杉浦康則氏がミュンヘンより帰国。
- ◎ 2002年12月に井上暁子氏がワルシャワより帰国。

- ☆ 2002年6月15日に年報の総会が行なわれ、幹事選出、新会員の紹介等が行われた。

2001年度 独語独文関係の論文題目

卒業論文

- 赤石文佳 : 文学作品において文体の引き起こす読み手の影響について
— 複数の翻訳に関するアンケートの分析 —
- 阿部雄一郎 : 北海道方言について — 知られていながら使われない言葉 —
- 柳原伸洋 : ドイツ歴史家論争をめぐる諸問題

博士論文

- 前原真吾 : 近代ドイツの文筆業 — ドイツ帝国における文筆家の職業団体を中心に —

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため、下記の事業を行なう。
 - 1) 機関誌「独語独文学研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会会員は北海道大学大学院文学研究科・独語独文学関係の教官・院生ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。

本会会員は上の活動の遂行のため所定の会費を払う。

本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。

本会の事務局は北海道大学大学院文学研究科におく。

本会に賛助会員をおく。

☆ 論文執筆要項

1. 論文審査
 - 1) 本誌は論文の掲載に関して審査を行う。
 - 2) 論文の採否は審査委員が決定する。その際、原稿への加筆、修正などを求めることがある。採否の結果は、編集委員会が投稿者に通知する。
 - 3) 審査委員は、編集委員会から委嘱を受けた本会所属の教員数名がその任にあたる。

2. 原稿執筆規定

執筆申し込み：執筆希望者は、各年度の5月に行われる総会の前日までに、その旨を編集委員会に申請すること。

ページ数：20ページ程度。

1ページの文字数・行数は任意。ただし35～37行程度が望ましい。

原稿の大きさ：A4

論文題目：原稿1ページ目の最上段、中央に、太字またはゴシックで多少大きめに記載する。二行にわたっても構わない。

また、別紙にドイツ語または他の欧文による題目を記載する。

注釈・文献：注釈は脚注または奥付けとする。注釈番号はアラビア数字で右括弧付き。

執筆者氏名：原稿1ページ目の3行目（題目との間に1行あけること）、太字またはゴシックで右端に記載する。

身分の明記：原稿末に丸括弧つきで、右寄りで所属機関・職名を明記する。

締め切り：10月31日

会 員 名 簿

※青 柳 謙 二	○阿 部 和 夫	石 川 克 知	石 原 次 郎
伊 藤 祐 紀 子	井 上 暁 子	岩 井 洋	岩 田 聡
◎植 木 迪 子	梅 津 真	江 口 豊	岡 崎 朝 美
岡 田 麻 子	萩 原 達 夫	香 川 千 穂	川 崎 良 江
※川 島 淳 夫	川 嶋 幸 子	岸 川 良 蔵	○熊 坂 亮
佐 藤 修 子	佐 藤 俊 一	塩 谷 幸 子	清 水 誠
神 久 聡	○真 貝 恒 平	杉 浦 康 則	鈴 木 将 史
瀬 尾 慎 一	高 橋 修	高 橋 吉 文	田 中 剛
対 馬 見	寺 田 龍 男	○戸 松 豊	中 川 勝 昭
中 祢 勝 美	名 執 純 子	名 執 基 樹	西 川 智 之
シャイフェレ馨子	藤 本 純 子	前 原 真 吾	最 上 英 明
森 田 一 平	山 口 修 司	山 田 恵 子	三 浦 國 泰
山 田 貞 三	山 田 善 久		

◎は会長

○は幹事

※は名誉賛助会員

編 集 後 記

レフェリー制導入二年目にあたる本年は、掲載論文二点のみということになりましたが、これは厳正な審査の結果によるものです。会員の方々をはじめ、多くの皆様の忌憚のないご意見・ご批判をお聞かせ願いたく思います。またご多忙中、快くレフェリーを引き受けてくださった方々には、この場を借りて深く感謝申し上げます。

編集委員一同